

令和7年度 第1回甲賀市図書館協議会 会議録

1. 日 時：令和7年8月20日（水） 午後7時～午後8時35分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 地村 千里 辻 聡 柴田 康彦
 奥田 叔代 松本佐知子 山崎喜代美 中村ひろ子
 山中 ルミ 平林 秀樹 徳田 綾子
 【事務局】立岡教育長 福井理事 林課長 西森参事
 香取館長 田中館長 井口館長 篠原館長 澤田館長
 小嶋係長
 【傍聴者】 1人

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 開会挨拶
- (4) 委嘱状交付
- (5) 自己紹介
- (6) 協議事項
 - ①会長の選任、会長職務代理者指名
 - ②図書館協議会の役割と位置づけについて
 - ③附属機関の会議の公開等について
 - ④令和6年度甲賀市図書館活動報告について
 - ⑤令和7年度甲賀市図書館実施事業計画について

(7) 報告事項

甲賀市図書館サービス計画第3次計画・甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画の策定について

(8) その他

5. 内 容

- (1) 開会
- (2) 市民憲章の唱和
- (3) 教育長あいさつ
 - ・委員就任のお礼を申しあげる。
 - ・昨年度、甲賀市図書館サービス計画第3次計画及び甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画を策定した。
 - ・子どもたちが本に興味を持ち、読書習慣を身につけるためには、図書館が大きな役割

を担うとともに、ボランティアの方々や学校、園、関係機関と連携し、子どもたちを支えていくことが重要である。

- ・電子書籍など様々な書籍がある中、スマホなどの画面は通過するものと受け止める一方で、紙面は反射して頭に入り、より深く理解できると言われている。スマホ、手帳、タブレットそれぞれにメモ書きをして、どれが一番記憶に残るかを行った実験では、圧倒的に手帳に書いたものが記憶に残っている結果が出ており、書くことや紙面を読むことの重要性がクローズアップされている。

- ・近年、子どもたちの読書量は増えておらず、帰宅してから全く本に目を通さない小中学生も多い状況であり、各学校が本に触れ合うことができるよう、様々な工夫を講じているところである。

- ・いつでも どこでも だれでも 学びあえる生涯学習環境の充実、子どもの時から本に親しむことができる環境づくりを目指し、引き続き、図書館事業の充実に努めていく。

- ・本市が目指す図書館運営実現のため、忌憚のないご意見、ご提案を賜りたい。

(4) 委嘱状の交付 (代表1人)

(5) 自己紹介 (委員、事務局)

(6) 協議事項

①会長の選任、会長職務代理者指名

会長：互選により大西正泰委員を選出

職務代理者：会長の指名により、地村千里委員を選出

会長あいさつ

- ・委員の皆様には、2年間よろしく願います。

- ・ビブリオトークを月1回開催しているほか、旧水口図書館において、ブックカフェなどを開催している。

- ・委員の皆様には、自分のできる範囲で、どうすれば図書館を盛り上げられるかといった視点から、活発な意見をお願いします。

(以降、会長により議事進行)

②図書館協議会の役割と位置づけについて

[事務局から説明]

③附属機関の会議の公開等について

[事務局から説明]

会 長：今の説明について、質問はないか。

委 員：なし

④令和6年度甲賀市図書館活動報告について

[事務局から説明]

会 長：活動報告は毎年、本協議会で報告がある。用語や数値、甲賀市の図書館が県内でどの位置にあるかなど、図書館事業について理解するため、本協議会とは別に勉強会を開催してもよいと思う。

今の説明について、意見・質問はないか。

委員：19ページのレファレンスで信楽、甲南が多いが、内容は、陶芸や忍者についての調査が多いためか。

事務局：所蔵調査などのレファレンス受付件数は、陶芸や忍者に関するだけでなく、簡単な質問から専門的な質問など様々である。図書館では、利用者の方に話しかけていただきやすい雰囲気となるよう日々努めているところである。

委員：11ページの研修のなかで、依頼によりアニメーションの実施とある。私は現在、子育てサロンに携わっているが依頼すれば、実施していただけるのか。

事務局：実績は、まだまだ少ないが、昨年度は、1回実施した。アニメーションは、ゲーム感覚で読書に親しむことができるものである。具体的には、子どもたちに、読み聞かせを行い、次に、意図的に言葉や表現など内容を変えて同じ本を読み、違っていたところに気づいた人がダウトと、手を挙げるもので、大変好評だった。本来、子ども向けのものであるが、研修として図書館職員で行った際も、盛り上がり、大人でも十分楽しめたことから、子どもから大人まで幅広い年齢層で実施できるものであると思う。今後も、要望があれば実施できるよう、研鑽を重ねていきたいと考えている。

委員：28、34、35ページに、対面朗読ボランティアみみずく、音訳グループみみずくと記載されているが、今年度から、朗読ボランティアみみずくに名称変更した。当初、主に視覚障害者の方に対し、広報を録音し届けるなどの活動をしていた。20年近く活動してきたが、メンバーの高齢化により、音訳の方は退き、他のグループにバトンタッチしたため、現在、音訳活動はしていない。そのほか、対面朗読ボランティアという名称では、対面朗読のみの活動と受け止められることから、対面朗読以外にも、朗読会や児童クラブなどへの訪問朗読など幅広く活動をするため、朗読ボランティアと名称を変更した。既に広報等では変更していただいているが、報告書に掲載されているためお知らせしておく。

⑤令和7年度甲賀市図書館実施事業計画について

[事務局から説明]

会長：今の説明について、意見・質問はないか。

委員：郷土資料の寄贈も多くあったと思うが整備は進んでいるのか。

事務局：すべてを完了するまでには、時間を要するが、順次、整備している状況。

個人から多くの寄贈をいただいております、特に、貴重な資料などは甲南の郷土資料室へ積極的に整備している。

委員：ヤングアダルトサービスの詳細について説明願う。

事務局：主に中学生、高校生から20歳前までの年齢を対象としている。子どもの頃は、学校や家庭でも本に触れる機会が多く、大人になれば、自分の時間をつくることができ、本に触れる時間もあるが、この年齢層は、受験、部活など多忙になることから、どうしても本から離れやすい世代である。そういっ

た年齢層を対象に、親しみやすい、読みやすい本、また、その世代特有の悩みなどにも応えられる資料を充実させている。

会 長：この事業計画は、毎年作成され、報告いただいております、大変重要な資料である。今後の会議においても何度も出てくることから委員の皆さんも理解しておいてほしい。初めにも申しあげたが、勉強会を開催し、理解してもらうことが重要と考える。

(7) 報告事項

[事務局から報告]

(8) その他

- ① 講演会「末裔が語る 家康と甲賀忍者」の開催について
- ② 甲賀図書館空調設備外改修工事について
- ③ 市内各図書館の空調設備状況について

6. 閉会

副会長あいさつ

2か月前の産経新聞に掲載された記事を紹介する。65歳以上の高齢者を対象にした調査で、慶応義塾大学と京都大学の6年間にわたる共同研究により、図書館が多いまちほど長寿のまちであることが明らかになった。

図書館の蔵書数が人口当たり1冊増えると、要介護リスクが4%減少することに相当する相関関係が確認されたものである。

この調査結果は、図書館にとって、良いニュースである。このように図書館を違う視点から見るということも重要ではないかと感じた。